

駅周辺整備事業の 進捗状況について

飯田市 リニア整備課

これまでの検討経過

飯田・リニア駅前空間 デザインノート



リニア駅前空間の考え方	01
駅前空間の設計方針と全体計画	04
設計方針	
1: アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間	06
2: 住民や来訪者の居場所となる駅前空間	08
3: 伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間	12
4: 人のつながりと、伊那谷全域へといざなう駅前空間	16
5: 時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間	18
持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり	20
付録: 基本設計の検討経緯	22
付録: 基本設計の検討体制	24

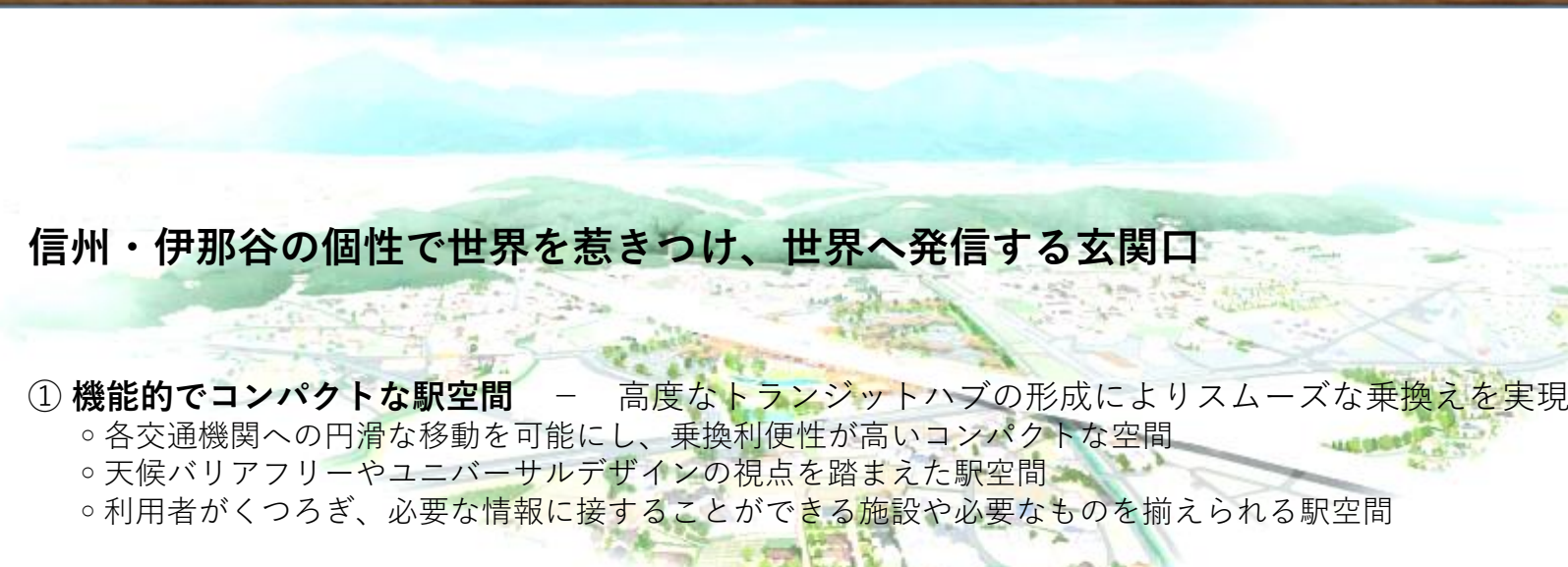
2019年12月 飯田市



リニア駅前広場の考え方 ①

目指す姿
(理念)

信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口

- 
- ① **機能的でコンパクトな駅空間** — 高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現
 - 各交通機関への円滑な移動を可能にし、乗換利便性が高いコンパクトな空間
 - 天候バリアフリーやユニバーサルデザインの視点を踏まえた駅空間
 - 利用者がくつろぎ、必要な情報に接することができる施設や必要なものを揃えられる駅空間
 - ② **信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間** — 来訪者へのおもてなしを実現
 - 来訪者を信州・伊那谷各地へと誘い、波及効果を高めるような、地域の魅力や情報を発信する駅空間
 - 信州・伊那谷の地場産品や伝統芸能等に触れられる駅空間
 - 美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる駅空間
 - ③ **自然との調和を目指した駅空間** — 豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現
 - 新たに作り出される景観と伊那谷の美しい自然が調和した駅空間
 - 多面的な機能を持つグリーンインフラが整備された駅空間
 - 再生可能エネルギーの活用や低炭素社会の取り組みの場となる駅空間
 - ④ **地域と一体化した駅空間** — 地域の一体化を実現
 - 地域住民が日常生活で便利に使える駅空間
 - イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場としても活用できる駅空間
 - 防災機能を果たし、非常時には地域住民とリニア駅利用者が安全に避難できるとともに、帰宅困難者にも対応できる駅空間

整備
コンセプト

飯田・リニア駅前空間デザインノートより

リニア駅前広場の考え方 ②

駅前空間の設計方針と全体計画

飯田・リニア駅前空間デザインノート

設計方針

1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間

- ・広域へアクセスしやすい交通広場と、地域の人々が使いやすい乗降場、安全で利便性の高い乗換えを実現します。
- ・わかりやすく、スムーズに乗換えられる駅空間とします。
- ・天候にも対応したバリアフリー環境とし、サイン類をはじめユニバーサルデザインとします。

2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

- ・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、人が主役の緑とにぎわいの空間をつくります。
- ・リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場は、大小様々な使い方ができ、居心地の良い空間とします。
- ・伝統文化の継承や地域コミュニティを高める空間とします。

3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

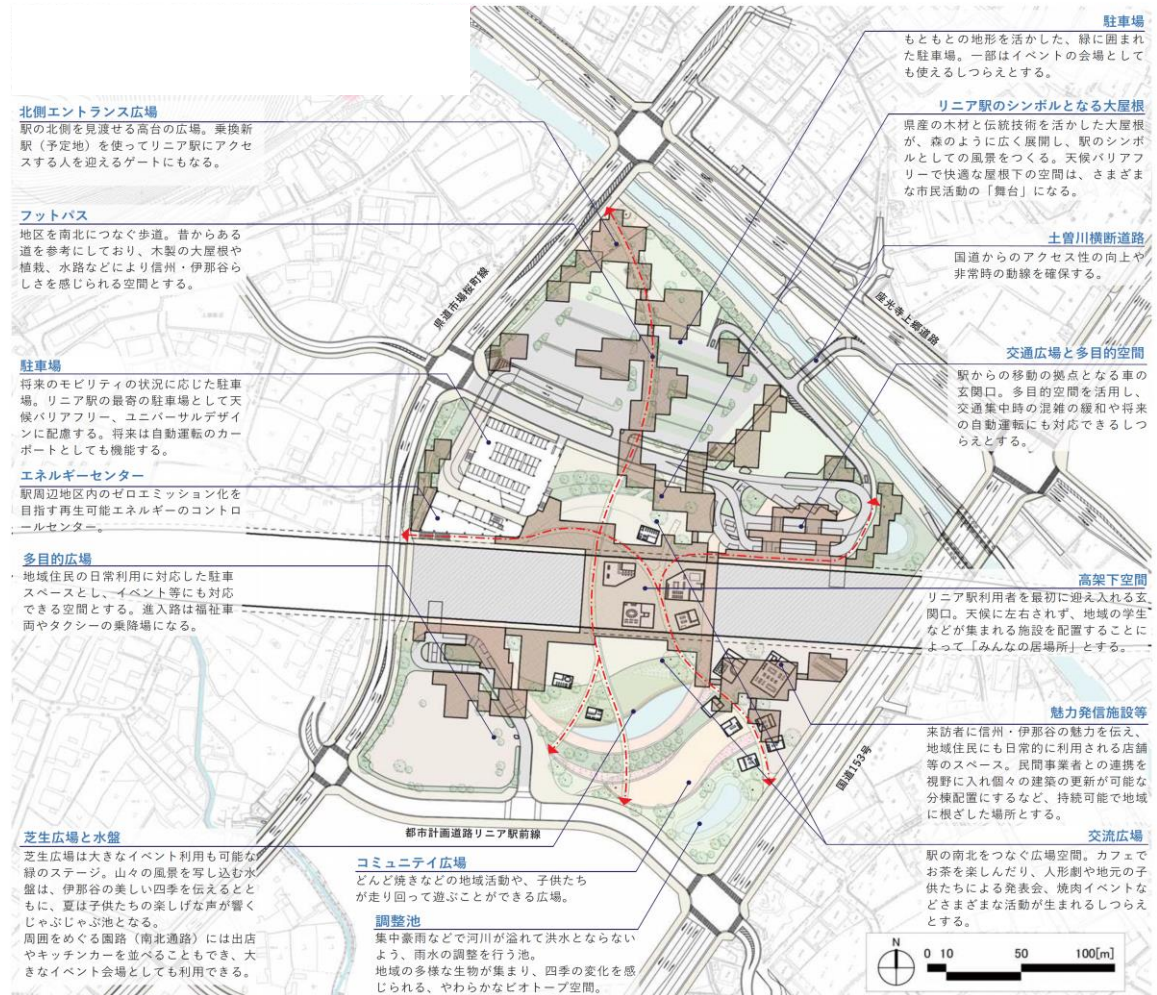
- ・地域風土の特徴を活かし駅を出た瞬間から信州・伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と地場材を利用した大屋根により、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・地域住民の暮らしや環境を活かし、守りながら、リニア駅周辺に波及効果をもたらし、歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間をつくります。

4：人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間

- ・人と人の出会いや、人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県や伊那谷、飯田市の魅力的なエリアやお店、伝統芸能やアクティビティを伝える情報提供などにより、各地へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・将来にわたり活用されるよう、運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間とします。

5：時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間

- ・さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティ、再生可能エネルギーに加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズに対応できるようにします。
- ・グリーンインフラを積極的に用い、環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間をつくります。
- ・再生可能エネルギーの活用やRE100の思想を体現する場の創出に加え、非常時にもエリア内のエネルギー自立化を見据え、可能な限りネット・ゼロ・エネルギー・ディストリクトの構築に近づける低炭素空間を創出します。



多様な方々と多様な関りを通じた「結い」の広場へ

Sustainability

持続可能な発展戦略



Ecollaboration

自然・歴史・文化の交流・共創



多様なプレイヤーの参画を促す
“先進的な価値”

Innovation

積極的な技術革新の導入



Glocalization

世界につながる地域創生



Civic-Academy

未来を担う世代への学びの場

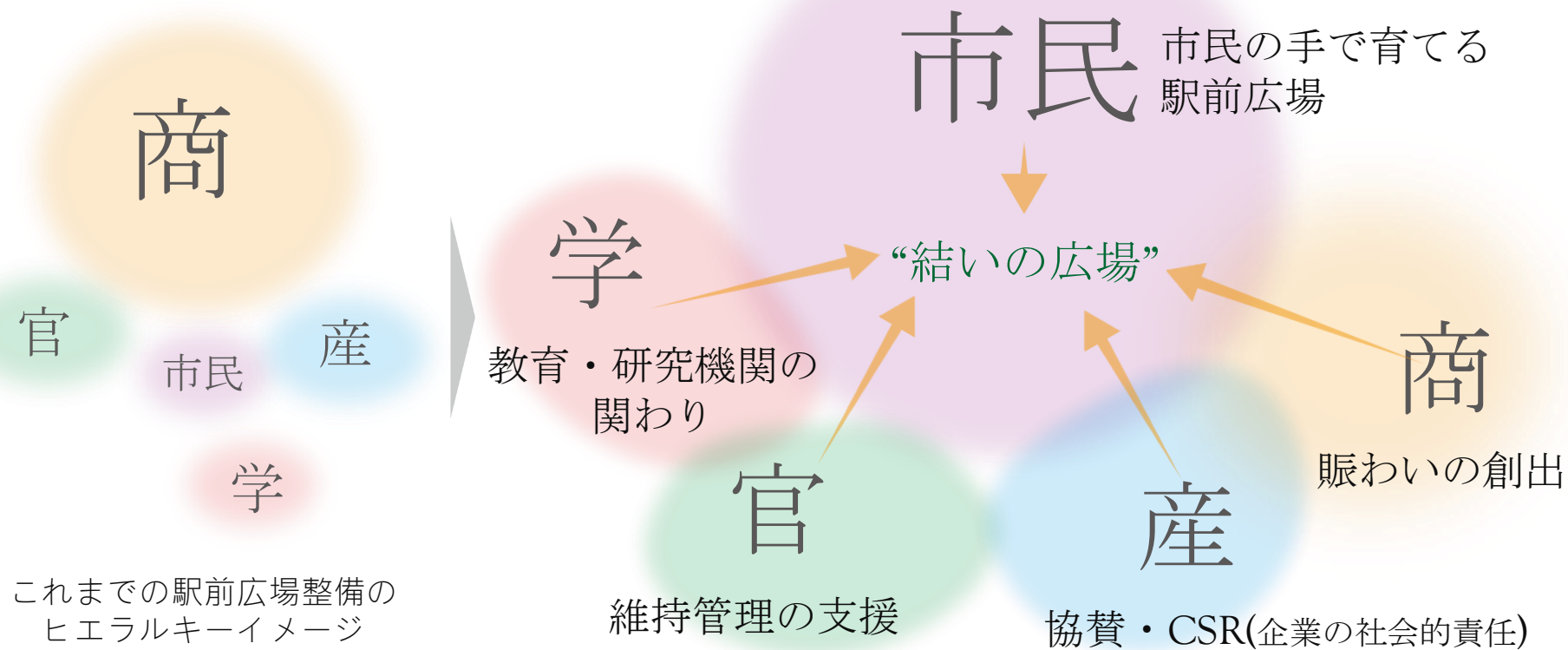


プロジェクトへの様々な関わり方を促す

多様なプレイヤー

市民・県民 民間企業 関係諸官庁 教育・研究機関

リニア駅前広場を共につくる



「環境文化都市」としての発展

(土木関係) 実施設計の完成

令和 4年 5月28日
第 1 回 報告会



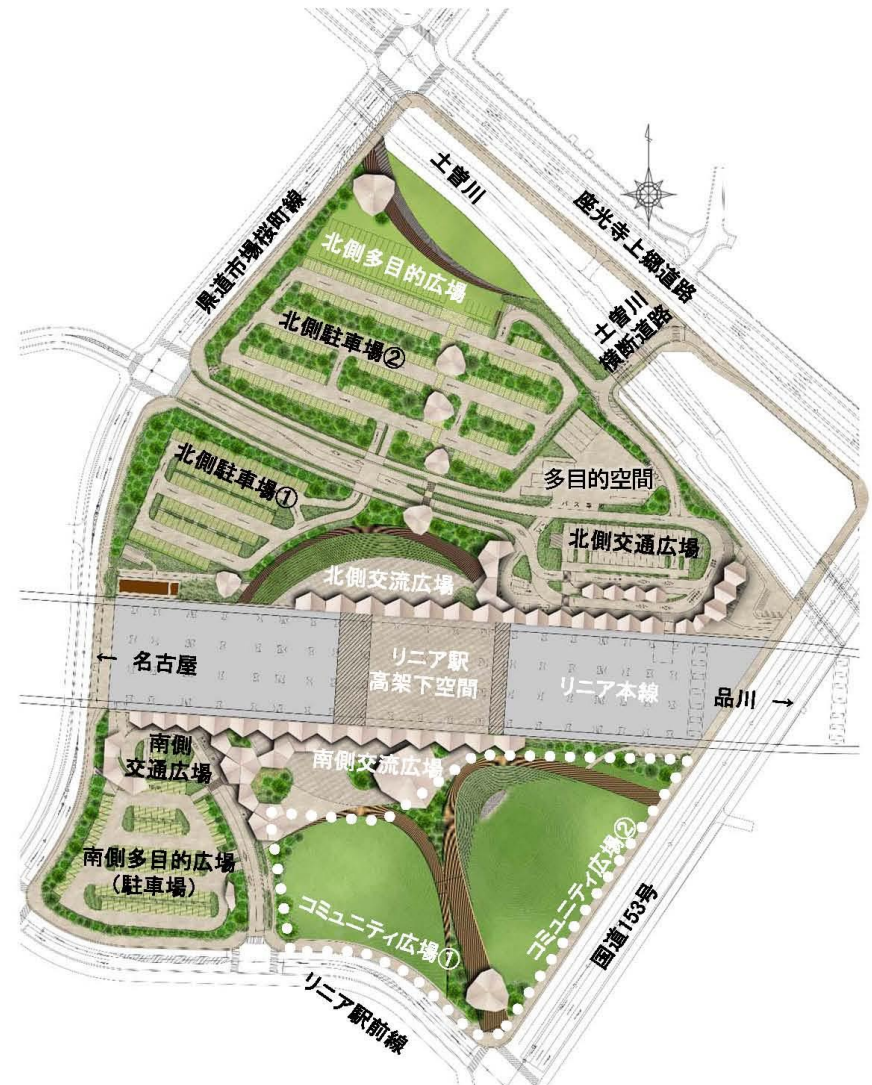
令和 4年 7月16日
第 2 回 報告会



令和 4年 9月17日
意見交換会



令和 4年12月4日
(土木関係)実施設計 成果発表会



リニア駅前広場の平面図（土木実施設計より）

北側多目的広場（臨時駐車場）

多目的に利用できる広場。
東には南アルプスや伊那山地が眺望できるビューポイント。
さまざまなイベント（マルシェやキッチンカー、グルメフェスなど）による
多目的な使い方が考えられる。
イベント時には臨時駐車場として、59台の駐車が可能。

北側駐車場①・②

原地形を生かしながら造成。
環境や景観に配慮し、舗装面は緑化舗装にするなど、多面的な
グリーンインフラを整備し、緑に囲まれた駐車場とする。
駐車台数は2箇所で291台。園路には、木造の大屋根を配置する。

多目的空間

大型バスの待機所として活用。
将来、次世代モビリティの普及による可変性を備えたスペース。
（EVバスやレンタカー、カーシェアリングなどのスペース及び
水素などのエコ・ステーションの設置など）

北側交通広場（短時間駐車場）

移動の拠点となる玄関口。
コンパクトで利便性が高く、スムーズな乗り継ぎが行える。
改札口への歩行者動線には木造の大屋根を配置し、天候
バリアフリーを確保。
短時間駐車場には、35台の駐車が可能。

北側・南側交流広場

駅の南北をつなぐ空間。結いの広場として、
住民や来訪者の交流と憩いの場となる。
木造の大屋根の下を活用して、さまざまな
イベントなどでの活用が考えられる。

南側交通広場

自家用車やタクシーで利用される方を想定。
改札口への歩行者動線には木造の大屋根
を配置し、天候バリアフリーを確保。

南側多目的広場（広場利用者駐車場）

地域住民の日常利用に対応した駐車スペース。
イベント時には、多目的にも利用できる広場。
駐車台数は115台。

コミュニティ広場①・②

様々な用途やイベントの数、規模に応じて使い分けができるように、
園路によって広場を2つに分割。
災害の発生が予想されるような豪雨時のために、防災調整池の機能
も兼ね備えている。



これまでの報告会や意見交換会および発表会などは、
YouTube「飯田市チャンネル」からご視聴ください。

詳細は市ウェブサイトID検索
またはQRコードから

ID 20223321 検索



リニア駅前広場のイメージ（鳥瞰パース）

〔南から北を望む〕



※駅舎の形状・デザインは、今後JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージになります。

リニア駅前空間のイメージ（鳥瞰パース）

〔北から南を望む〕



※駅舎の形状・デザインは、今後JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージになります。

交流広場・コミュニティ広場における賑わいの創出



※駅舎の形状・デザインは、今後 JR 東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。



※駅舎の形状・デザインは、今後 JR 東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

高架下空間・交流広場における賑わいの創出



※駅舎の形状・デザインは、今後 JR 東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

飯田市におけるリニア駅前広場のR5検討・整備の概要

交通 エネルギー

次世代インフラPJ

● 利便性の高い交通体系の検討

既存の公共交通とリニアの二次交通の総合的な在り方

● 新たな交通システムの検討

MaaS、自動運転、新モビリティ等の導入、JR飯田線との接続

● 再エネ・省エネの検討

災害レジリエンスやエネルギーマネジメント等を見据えた検討

● グリーンインフラ機能の検討

雨水排水ピークシフト、防災減災機能、自然環境の保全等

● 景観形成に向けた検討

建築物等の高さ制限、遠景・近景、緑地確保、眺望確保等

● 地域の木材活用に向けた検討

市民参画、森林資源活用サイクル、維持管理等

● 地域ブランド構築に向けた検討

魅力要素抽出・活用、地域間連携、関係人口の構築等

● 管理運営事業体の組成の検討

公民連携による管理運営組織・中間支援組織の組成等

● 広場、高架下空間への展開

事業者による活用、広場におけるイベント開催等の検討

● 情報発信に向けた取り組み

D X 活用、移住定住・二地域居住案内、継続的な発信等

駅前空間 整備

トータルデザインPJ

魅力発信

公民協働ブランド
クリエイティブPJ

調査・工事

● 埋蔵文化財調査

北側(ママ下遺跡)

● 基盤整備

南側粗造成

設計業務

● 建築設計

木造の大屋根

皆さんと共に育て、共に創り上げていく

「こんなショップがあったらいいな。」
「こんなイベントができたらいいな。」
「こんな施設があったらリニア駅前広場に遊びに行きたいな。」
「それにはこんな設備が欲しいな。」など、
夢に描いたリニア駅前広場を実現に形にしていく段階に入ります。
リニア駅前広場のにぎわいを創出するために、どのような機能を持たせ、それをまちづくりにどう生かしていくのかを、事業者の方をはじめ多くの皆さんにご参画いただきながら議論し、検討を深めていきたいと考えています。

リニア駅前広場の整備に向けた取組、運営主体の形成に向けた検討

令和5年度 リニア駅周辺整備 粗造成工事について

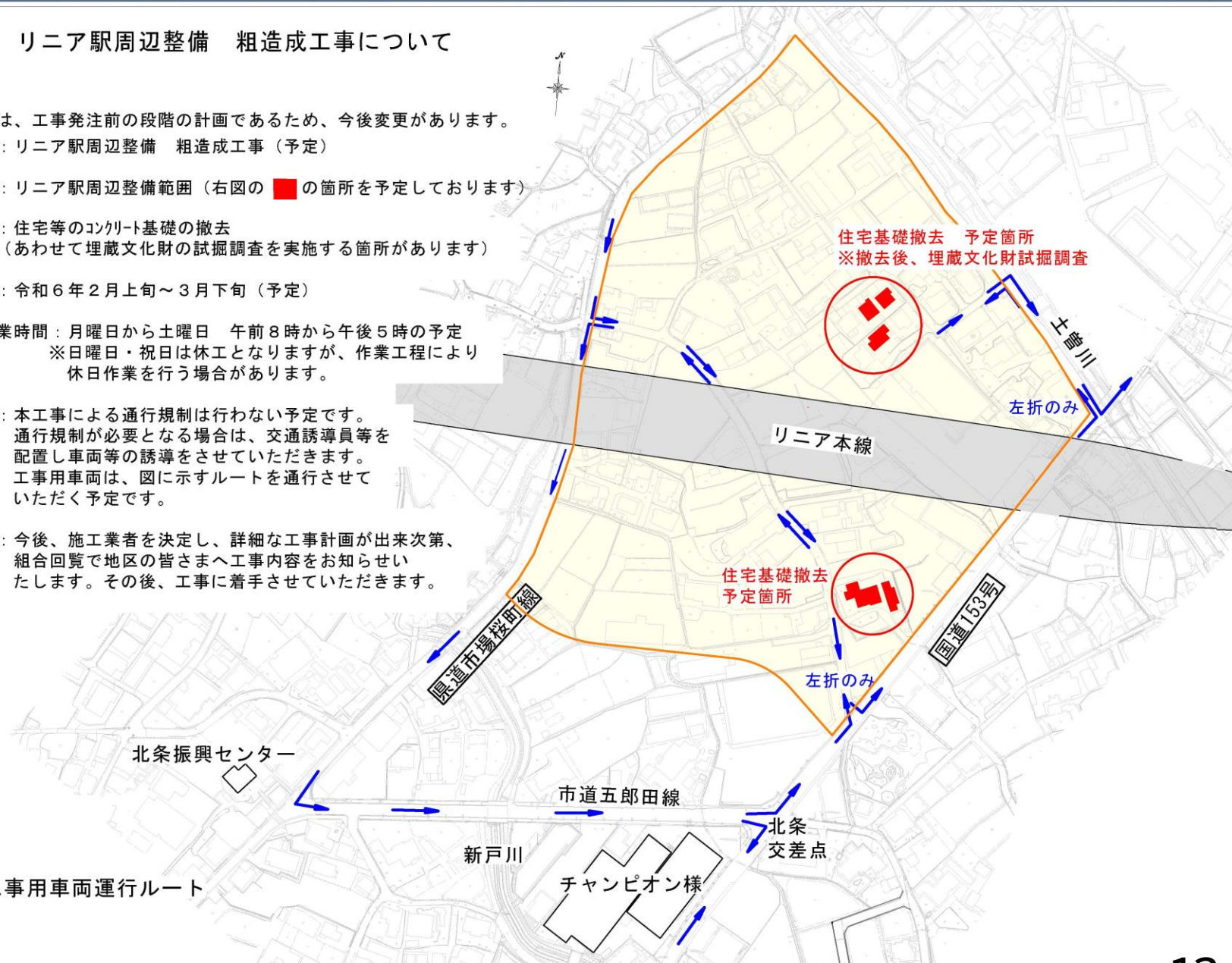
工事の計画

※本資料の計画は、工事発注前の段階の計画であるため、今後変更があります。

1. 工事名 : リニア駅周辺整備 粗造成工事 (予定)
2. 工事箇所 : リニア駅周辺整備範囲 (右図の ■ の箇所を予定しております)
3. 工事の内容 : 住宅等のコンクリート基礎の撤去
(あわせて埋蔵文化財の試掘調査を実施する箇所があります)
4. 工事期間 : 令和6年2月上旬～3月下旬 (予定)
5. 作業日及び作業時間 : 月曜日から土曜日 午前8時から午後5時の予定
※日曜日・祝日は休工となりますが、作業工程により
休日作業を行う場合があります。
6. その他 : 本工事による通行規制は行わない予定です。
通行規制が必要となる場合は、交通誘導員等を
配置し車両等の誘導をさせていただきます。
工事用車両は、図に示すルートを通行させて
いただく予定です。
7. 今後の予定 : 今後、施工業者を決定し、詳細な工事計画が出来次第、
組合回覧で地区の皆さまへ工事内容をお知らせい
たします。その後、工事に着手させていただきます。

凡 例

← 工事用車両運行ルート



工程表

※工程表スケジュールは現時点（2023年3月）のものであり、変更となる可能性があります。

事業主体	年度 項目	2022(R4)迄	2023(R5)				2024(R6)~2026(R8)	2027(R9) 以降
			4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月		
飯田市	駅前広場整備		用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転					リニア中央新幹線 開業
			関係機関協議					
		土木実施設計・説明・意見交換等			建築設計			
					埋文調査・準備工事・土木工事			
						建築工事		
	交通エネルギー (次世代インフラP)		利便性の高い交通体系					
			新たな交通システム					
			再エネ・省エネ					
	駅前広場の空間整備 (トータルデザインP)		グリーンインフラ機能					
			景観形成					
			地域の木材活用					
	魅力発信施設 (公民協働ブランドクリエイトP)		地域ブランド構築					
			管理運営事業体の組織構築					
			広場、高架下空間の活用					
					情報発信			



ご清聴、ありがとう
ございました

